

# 万代の風

万代コミ協だより第38号

2021年(令和3年)3月25日

万代地域コミュニティ協議会

発行者:丸田 喜也

新潟市中央区天明町19-16

＝賑わいのあるまちの活性化を模索するコミ協の取り組み＝



村上市「きっかわ」町屋を視察

■日時  
令和2年11月13日

■行程  
出発:村上町屋再生プロジェクト対応住居見学:割烹新多久にて休憩昼食:旧石田園住居見学:富士美園で村上茶

## 第1弾 村上視察

空き家対策やまちづくりに関する調査研究を行いました。

第1弾 町づくりの先進地である村上市を視察。第2弾 地域の皆様と「空き家対策」座談会を開催しました。

## 新潟市地域提案型 空き家活用事業

未来に引き継ぐ魅力発見  
「空き家対策を考える」

## 第2弾 空き家対策 座談会

### ■日時

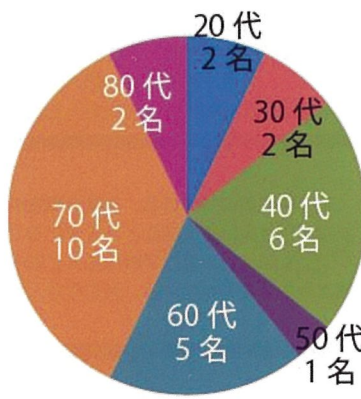
令和3年2月24日  
13時～15時半

### ■会場

ボードゲームカフェクアスタ(蒲原町) ※希望者は、天狗商店(東万代町)にてカシランチを楽しみました。

### ■参加者

28名(内訳:登壇者11名  
聴講者13名、関係者4名)  
※年齢別参加者



### ★内容 ■第1部

●先進地視察内容報告  
小池建築事務所代表 小池昭雄氏より、村上でのまちづくりに関する話を伺いました

●地域の良さを探る  
座談会 ※内容は裏面参照



コーディネーターに竹石氏を迎え座談会を開催

■第2部  
・四百年の歴史を味わう  
富士美園株式会社代表 飯島剛志氏より、県北の茶処 村上茶の話の聞きながら、在来種と品種の2種の村上茶をいただき交流をはかりました

・万代長嶺小学校児童発表案内  
万代長嶺小学校4年生が、地域の問題や町づくりについて、町の人に話を聞き、アンケートを実施し、自分たちで解決策を考え「地域の魅力再発見13の提案」としてまとめました。

その一部を万代長嶺小学校の内山先生、廣田先生が映像にて紹介してくださいました  
日をあらためて3月12日に学校で発表会を開催し地域と父兄20人ほどの方も交え子供たちの提案に熱心に耳を傾けました。

### ★登壇者

■コーディネーター

・竹石松次氏(新潟放送 顧問)

### ■助言者

・小池昭雄(小池建築事務所 村上市)

### ■パネラー

・丸山健一(万代地域コミュニティ協議会)

・豊岡寛(新潟まつり江東地区実行委員会)

・小池朋博(天狗商店)

・遠藤栄昭氏(ボードゲームカフェクアスタ)

・小林紘大氏(コウダイ企画室 中央区大島 建築士)

右:万代長嶺小学校の先生が子供たちの発表を映像で紹介



左:村上 富士美園 飯島氏より北限の茶処 村上茶の話



座談会

登壇者から出た意見を以下の3つにわけて抜粋しました。

①まちづくり、地域の魅力について ②情報発信について ③感想

■新潟放送 顧問 竹石松次氏

- ①村上のまちづくりは新潟県のモデルケースとして成果が上がっている。手作りのイベントをして、お年寄りが丁寧に昔のことを説明することで、みんなが村を好きになる。見た人が感動するものを作ることが大切。そのやりとりが町の賑わいにつながる。
- ②万代コミュニティ協議会の活動は素晴らしく、特に広報誌は小学生や三社神社の宮司などとコラボしていて、面白く情報発信をしていると思う。情報発信は地域の人々が皆でやる機運があるといい。商売をしていると余裕がないが高齢者は余裕がある。例えば柔軟性のある孫とお年寄りと一緒にやるとか、空き家を1件借りて情報発信の拠点にするなど、小さなことから始めていくのが大切なのでは。
- ③この地域にはお宝が沢山あり、ゆかりのある著名人も多い。(作詞家の相馬御風さん、画家の金子孝信さん、DeNA オーナーの南場智子さん等)地域のマンションにはアルビレックスの選手が住んでいるので、子供たちとの交流をしてもらえたら。市の図書館、ほんぽ一とを大いに利用することも町が豊かになることにつながる。

■小池建築事務所代表 小池昭雄氏

- ①これまで30年間まちづくりを行ってきたが、ここ数年は若い人が自分たちとは違うやり方で取り組みを始めているので、これからが楽しみ。町の魅力は人の魅力にも左右され、面白い観光ボランティアが1人いるだけで人が集まる。町に面白い人が何人かいるといい。
- ②村上の人形さまめぐりは、商売していない人もお客様を自分の家へ人形を見てもらい説明をする。これが良かったのではないかな。
- ③あせらずにこういう会を重ね、皆の意見をとりいれていけばいいのでは。

■万代地域コミュニティ協議会 丸山健一氏

- ①数年前に地域に建った大きいマンションの中に、以前から新潟市に陳情していた、念願の保健センターと保育所ができた。近くには小学校や児童遊園もあり、これから地域の子育ての核となることを期待したい。目標を持って、長いスパンで取り組みことが大切だと思う。また、万代町通りの商店については、これまでに3回調査をしている。推移をチェックしてみたらどうだろうか。
- ②万代島が脚光を浴び沼垂も頑張っているが、この地域とは生い立ちも異なり、刺激されるに至っていない現状。
- ③難しい問題だが、今回のイベントで少し霧がはれた。やれることはあるし魅力もある。少しずつ拾い上げたいのでは。

■新潟まつり江東地区実行委員会 豊岡寛氏

- ①万代町通りに魅力あるものはないか。魅力あるものをつくるのが、空き家対策につながる。企業や商店が協力して、魅力ある商店街を作ることが大切だと思う。若者が興味をしめすようなもの、例えば飲食店街や歩行者天国などを自分たちで作り上げるのがいいのでは。この地域に高校があった時は町に高校生が出ていたが、今は高校生がいなくなった。専門学校はあっても地元の人でない。
- ②年配の方の話はうんちくがある。小学校でやっても一過性。情報発信はみんなでやればいい。大変だが人材の育成が大切。
- ③今後、小学生たちをターゲットにした何かができたらいいと思う。

■天狗商店代表 小池朋博氏

- ①店を始める際、不動産屋を回ったり町を歩いたりして空き店舗を探したが、時間がかかった。見ただけでは空き家かどうかわからない。情報をまとめてネットで公開するなど、検索しやすくすることが大切では。コンパクトな沼垂テラスに対し、万代町通りは広く店同士の関係もドライ。店にはそれぞれのお客様にしかわからない魅力がある。お客様がたまに他の店にも行ってみようかなと思えばいいと、魅力が生まれるのでは。
- ②今は、SNSが3つできれば、情報発信ができる。お金をかけてホームページを作る必要はない。情報を発信し続けることができればいいが、誰がやるのが問題。労力がかかるので、無償でやるのは難しい。店や空き家を管理している不動産屋さんが仕事としてするのはどうか。
- ③店を続けていくことが商店街の活性化につながると思う。毎回食材を変えてカレーを出している。それを楽しみにして店や町に来てほしい。

■ボードゲームカフェアスタ代表 遠藤栄昭氏

- ①万代町の魅力は駅から万代シティから近いこと。居住・商業エリアとして活性化するのがいいのでは。村上で黒熊を少しずつ伸ばしたように、少しずつ木を植えるとか、商店街の外観をきれいに歩いていて気持ちいい雰囲気を作るとか、目に見える変化を積み重ねていけば、ここに住みたいと思う人や、ここで店を始めたいと思う人も増えるのでは。魅力を作る⇒住む人が増える⇒面白い店ができる！
- ②万代町商店街のポータルサイトが以前あったが今は運用されてない。それを更新するだけでも情報発信になるのでは。自分の店も人手の問題などでSNSはあまり活用できていない現状。SNSは毎日安定して発信し続ける必要があり、仕事として誰かがやらないと難しいのでは。
- ③元気に店を続け商店を減らさないように頑張りたい。帰省した方に、こんなに楽しい場所があった、また寄りたいと言ってもらえることが嬉しい。

■コウダイ企画室代表 小林紘大氏

- ①エリアの価値や魅力は、日常にしかなく、非日常にはないと考えている。他の地域のものを持ってきても意味はないし、流行っているものをもってきても面白くない。新しいコンテンツを持ってくるとすれば、議論を重ねる必要があると思う。
- ②成功している地域は、見せ方、情報発信は上手い。糸魚川は、町・海・山の暮らしにジャンル分けして住む人目線で情報発信している。情報発信する人は、地域から絶対逃げない人。地元の不動産や、工務店など、地域に土着でやっている人が発信するのが原則。
- ③こういう会では「活性化」という言葉を使わないことにしている。なぜなら、みんなの定義が違うから。

■その他、参加者より

- この町に嫁いで40年以上。ここが大好き。昔はもっと活気があり何処へいっても親切に対応してくれ、町が楽しかった。今は少し怖い雰囲気。昔は持ち家の人が商店を経営していたが、今は借りて経営。それもネックなのでは。(関谷さん)

まとめ

- 魅力ある街づくりは、魅力ある人間を発掘し世に出していく事が大事。それをみんなで一緒に。
- 空き家に対しては、調査をすることが重要。単なる調査ではなく目的を持った調査を。何のために調査をするのかを明確に。地域を元気にするためにやるという気持ちで取り組む。